



「卒業」雑感

(財) 地方公務員等ライフプラン協会

別府新一郎

卒

業時には、それまでどう過ごしてきたかが否応なく思い返される。近いうちに、筆者は、協会への出向期間を終え、派遣元へ戻るだろう。

いわば協会の「卒業」…この言葉を聞いて何を連想するだろうか。今年41歳の筆者に近い世代では、故尾崎豊さんの「卒業」を思い出す読者の方もいるのではないだろうか。

初めてこの曲を聴いたのは、学生時代、深夜のコンビニ店勤務時の有線放送を通じてであった。

歌詞を聴き、表面上では店の仲間うちの空気を読み共感した体を装ったが、内心では、自身のありきたりな“卒業観”とは異なる歌詞に対し、彼我の違いを密かに覚え、違和感を感じたことを覚えている。

筆者の半生では、平凡だが幾度となく「卒業」を経験している。

しかし、その都度の卒業に臨んでの本音は、単なる行事であるという冷めた気持ち、あれこれやり残した気持ち、後悔、次に待ち構える生活で頭が一杯の気持ち…などの複数の気持ちが混ざる、そんな精神状態…これが筆者の実際の卒業観だ。

それでも今までの卒業の中で、思い出に残る卒業を思い返してみる…例えば挫折の連続ながらも漸く「卒業」に辿り着いた少年野球。社会人になり、週末さんざん通った関西のゴルフ場での、東京への異動前の最後のラウンドの時…好きなことを目一杯やり切った時の「卒業」が真っ先に思い出される。

今、日曜夜にこの原稿を書いている。ここまでの文脈に沿って言えば、いわば毎週来る土日の休日を「卒業」する直前と言えるだろうか。

筆者は、土日の休日が終わる日曜夕刻頃の時点で、翌日月曜からの日々が憂鬱になることがある。“日曜夜の憂鬱”状態とでも言おうか。読者の皆様にも思い

当たる節があるのではないだろうか。この憂鬱へはどう対処すればよいのか？

協会職員らしい解決策を言えば、土日祝日の休日のライフプランを立てて、やりたいことを満喫する、ということである。休日にやりたいことを目一杯やり、月曜からのウィークデーへの活力とする…ここまで色々書いたが、結論は、メリハリ効果による明日への活力…と無難、地味、月並みな解決策となる。いや、そもそも充実した楽しい人生を過ごすのに、高度で複雑な処方箋は不要、難しく考える必要が無いものなのだ。

翻って現実を直視すると、生活習慣病に悩む筆者がいる…もっと健康に留意して、今後の“人生の午後”である残りの半生を夢中で過ごせるようにしよう。

そして（自戒を込め本当に）いつ来るかわからない人生の終末を迎えた時、今まで何百回も味わった“日曜夜の憂鬱”の様な心理状態とは無縁の「卒業」ができれば、と思う。

さて、末筆になりますが「最近卒業ってしてないな」と感じた皆様へ、旧年度は全員無事卒業です、さあ新しい年度、仕事も遊びも何でも夢中で取り組んでみませんか!?

